

# あひるに対する 餵粕の給与試験

古 西 玉 夫

## 試験の目的

餵粕は粗蛋白質の含有量(下表の通り)が多く、酵素も含まれていて、その割合に安価なので、あひるの飼料として使用されている。一般には原料大麦の餵粕であるが、入手できたものは乾燥したマイロの餵粕で、表示されている粗蛋白質の含有量が下表のとおり非常に多いので、これを給与して産卵率孵化率の比較試験を行った。

飼料名 \ 成分	水分	粗蛋白質	粗脂肪	可溶無窒物	粗灰分	粗繊維
餵 粕 (生)	58.0	13.0	4.2	15.9	5.4	3.5
〃 (乾)	13.0	21.6	7.5	43.2	3.8	—
マイロ餵粕 (乾)	10.6	40.8	11.8	24.3	6.0	6.5

## (1) 試験方法

昭和30年2月24日ふ化の白色大型あひる雌12羽、雄34羽を対照区試験区の2区に分け、各区共雌6羽、雄17羽とし、昭和30年8月26日より9月6日まで11日間予備飼育し、9月7日より11月15日まで10週間の産卵成績を調査し、同期尚中の種卵を1週間毎に入卵しそのふ化成績を調査した。

## (2) 飼 料

配合率は下表のとおりで、両区共緑餌とともに練餌として飼養せしめ、かき殻は別容器に常置し、自由に摂取出来るようにした。

飼料名	区分	対照区	試験区
玉蜀黍		10	10
屑小麦		25	25
仕上糖		10	—
越		6	6
裸麦糖		10	10
脱脂糖		15	15
魚粉		5	5
蛹油粕		12	12
アオサ		2	2
カルシウム		25	25
骨粉		2	2
食塩		0.5	0.5
飴粉		—	10
計		100	100
粗蛋白質含有量		20.87	23.83

### (3) 試験の結果

#### (1) 産卵成績

週別	対照区			試験区		
	延羽数	産卵個数	産卵率	延羽数	産卵個数	産卵率
1	119羽	101ヶ	84.87%	119羽	111ヶ	93.28%
2	119	101	84.87	119	102	85.71
3	119	92	77.31	119	96	80.67
4	119	89	74.79	119	72	60.50
5	119	71	59.66	119	50	42.02
6	119	63	52.94	119	39	32.77
7	119	59	49.58	119	46	38.66
8	119	57	47.90	119	51	42.86
9	119	41	34.45	119	21	17.65
10	117	24	20.51	119	22	18.49
計	1,188	698	58.75	1,190	610	51.26

## (一) 孵卵成績 (対照区)

入卵月日	入卵個数	無精卵数	発育中止卵数	死籠卵数	孵化羽数	受精率	入卵数に対する孵化数	受精卵数に対する孵化率
9.14	87ヶ	33ヶ	14ヶ	33ヶ	7羽	60.07%	80.5%	129.6%
21	90	34	10	29	17	62.20	18.89	30.36
28	80	27	10	21	22	66.25	27.50	41.51
10.5	77	31	14	17	15	59.74	19.48	32.61
12	55	25	7	12	11	54.55	20.00	36.67
19	53	23	2	18	10	56.60	18.87	33.33
26	50	25	5	10	10	50.00	20.00	40.00
11.2	45	15	3	18	9	66.67	20.00	33.33
9	32	19	4	1	8	40.63	25.00	61.54
16	24	17	3	3	1	29.17	4.17	14.29
計又は平均	593	249	72	162	110	58.01	18.55	31.98

## (試験区)

入卵月日	入卵個数	無精卵数	発育中止卵数	死籠卵数	孵化羽数	受精率	入卵数に対する孵化率	受精卵数に対する孵化率
9.14	83ヶ	5ヶ	21ヶ	41ヶ	16羽	93.98%	19.28%	20.51%
21	81	4	16	48	13	95.06	16.05	16.88
28	80	13	9	36	22	83.75	27.50	32.84
10.5	64	12	15	34	3	81.25	4.69	5.77
12	39	6	2	29	2	84.62	5.13	6.00
19	34	5	8	11	10	85.29	29.41	34.48
26	42	14	7	15	6	66.67	14.29	21.43
11.2	43	21	3	19	0	51.16	0	0
9	18	7	5	5	1	61.11	5.56	9.06
16	20	2	8	10	0	90.00	0	0
計又は平均	504	89	94	248	73	82.34	14.48	17.59

## 考 察

試験区は仕上糖を餡粕に置替えたため粗蛋白質の含有量が対照区より29.6%多くなつていたので当然試験区の方がよい結果となるものと予測していたが、結果は逆に産卵においても孵化においても試験区が対照区よりおとり、受精率のみが対照区より良かった。給与飼料の単価は1貫当り対照区は125円08銭、試験区は118円38銭で試験区の方が6円70銭安い、利用価値はあまりないものと思考される。